

# 令和5年度 赤穂市学校(園)評価報告書

学校園名 赤穂市立赤穂西小学校

## 1 本年度の学校(園)経営方針

「『確かな学力』と『豊かな心』をもち、夢に向かって進もうとする児童の育成」の学校教育目標のもと、個別最適な学び・協働的な学びとその往還から、自ら学ぼうとする児童の育成を図ると共に、互いの個性を認め合い、共に伸びていくとする仲間づくりを推進する。また、「地域に愛され 地域と共に創る学校」を目指し、コミュニティ・スクール活動を推進すると共に、ふるさとを大切に育てる児童の育成を図る。

## 2 本年度の学校(園)重点目標

- (1) 確かな学力の育成
- (2) 豊かな心の育成
- (3) 健やかな体の育成
- (4) ふるさとを愛する心の醸成
- (5) 働きがいのある職場づくり
- (6) 保護者や地域に信頼される学校づくり

## 総合的な学校園関係者評価

・児童が「校長先生誕生日おめでとう」って言いに来るくらい、アットホームな学校で、とても子どもたちがのびのびしています。全児童が兄妹のように一緒に遊び、学び、とてもよい環境だと思えます。いいねカードの取組が学校のみならず、家庭、地域に広がっていくといいなと思います。

・先生方の日常の努力に敬意を評したい。

・コロナ禍明け、失われた3年間に個人の日常生活優先の風潮の中、特別支援学級の新設、西小フェスティバルの開催など、この1年間教職員の努力に対して、感謝いたします。

・赤穂西小学校ならではの、児童1人1人が自分の役割を持ち、笑顔で学校生活を楽しんでいる様子を見ると、こちらも笑顔になりました。

・少人数のメリットを生かした指導、とても良く、今後も継続して欲しい。

・小規模校の特色を生かし新しい取組も試みる等、子どもの個性もしっかり光って、よい学校になっている。

・子どもが主体となり行事を遂行することを、学校全体で取り組んでいる。

・本年度の重点目標はほぼ達成できた。年々児童数が少なくなる中で、地域と学校が協力し、数々の行事を行うことができた。

・児童に寄り添った形で目標をしっかり定めて、取り組んでいる姿に感謝しています。

・人口減少、少子化時代です。高齢者や子育ての終わった世代には理解できない事も多々あります。小規模校の良し悪しの回答は児童達が将来出します。全てではなく要所所で学校、保護者、地域がフランクに垣根を越えた取組をと思うが…。ただ、学校は教育現場、難しいですね。ある程度の秩序も必要かも。

・PTAのPの動きが見えないところが気になります。

・地域との関わりでスポーツを取り入れて欲しい。児童のスポクラ参加の必要があると思います。

・全般的に児童が活発で、意欲的に取り組んでいる。

・児童個々の学力差、体力差は当然あり得るものだが、皆がそれぞれに関心を持ち、行動に移しているところがつかえる。

・豊かな心とマナー意識・意欲の高揚の基盤づくりを今まで以上に図っていただければ、素晴らしいと感じます。

・よく分からないが、(1)学力(2)心(3)体は最も重要(4)は、(4)と(6)をまとめて最後に(5)職場の方が良いような気がする。

## 3 自己評価結果 (A~D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

観点(重点目標)	評価項目(学校園・教師の取組) 評価指標および目標値(期待される姿)	評価資料	達成状況	改善の方策
確かな学力の育成	項目 児童の「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業の創造に努めているか。 指標 単元・授業の中に、児童の個別最適な学び・協働的な学びが見られる。	研究授業 研究テーマシート 児童の様子 学習成果物	B	・個人カルテを作るだけでは、保護者や児童との情報共有が不十分だと感じられるため、個人カルテを保護者に配ったり、子どものつまずきポイントを確認したりして、基礎学力の定着を進めていく。
	項目 基礎・基本の力の定着と向上のため、適切な指導・支援を行っているか。 指標 児童は、学年相応の計算・漢字を8割以上習得している。	児童個人カルテ テスト 学習成果物	B	・小規模校・少人数に合った指導方法や学習形態の工夫を進めるための、教職員の意識改革を進めていく。
	項目 ICTを効果的に活用した学習活動の推進に努めているか。 指標 児童は、クラスルーム・スクールタクト・デジタルドリル等を使って学習している。	市内活用状況表 研究授業 ICT研修	B	・再来年度の特別活動研究会に向けて、小規模の強みを生かした特別活動の研究を進めていく。
豊かな心の育成	項目 人権教育を推進し、児童の居場所づくりと、互いの個性を認め合える態度を育成することができているか。 指標 児童は、明るくいきいきと学校生活を送っている。自己有用感・自尊感情が育っている。	児童の様子 自分見つけアンケート	A	・自己有用感・自尊感情の育成に向けたいいねカードに取り組んだ。カードの記入が習慣化され、友達のよい所を見る目が育った。また、家庭や地域の方にもご協力いただいた。今後も継続し、西部地区=「いいねで育てる地域の子」となるよう、さんぽ・一声運動の表示にも明記し取組を広げていく。
	項目 道徳教育の充実を図り、考え議論する道徳の時間の充実に努めているか。 指標 児童は、道徳的諸価値について理解し、考えを言語化して伝え合い、深めている。	児童の様子 自分見つけアンケート 道徳ノート	B	・本年度道徳の研究を行った職員を中心に研修を実施し指導の充実に努めていく。
	項目 いじめ・不登校問題について全職員で共通理解し、組織的、積極的な対応をしているか。 指標 児童・保護者は、悩みやしんどさを学校や関係機関に相談している。	児童の様子 いじめ・不登校対策及び生活指導委員会 月1アンケート	A	・特別支援学級を含め組織的で持続可能な校内支援体制の構築をすすめる。
	項目 特別な支援を要する児童について全職員で共通理解し、目標を立てて指導・支援を行っているか。 指標 教職員と特別な支援を要する児童が目標を共有し、達成に向けて取り組んでいる。	児童の様子 個別の指導計画 特別支援教育校内委員会	A	・自己の将来像を描き、学ぶことや働くことの意義について考えることができるように、ゲストティーチャーから職業について話を聞く機会を設けた。
	項目 目標を明確にし、特別活動を要として教育活動全体を通してキャリア教育に取り組んでいるか。 指標 児童は、自己の将来像を描き、学ぶことや働くことの意義・役割を理解している。	児童の様子 キャリア・パスポート キャリアノート	B	保護者や教職員から話を聞くことで、「こんな自分になりたい・こんな生き方をしたい」と自分なりの考えをもつことができた。来年度も継続する。

## 学校園関係者評価

◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎8 ○6	◎3 ○11	・達成状況について先生方の評価が低いと感じます。主体的、対話的で深い学びは、本当によくできていると思います。 ・欲を言えば、数値目標を設定し、達成状況は達成率で評価できるとよい。 ・小規模校の利点を生かす取組を進めていく。 ・少人数のメリットの中で運動場での取組を推進する。学力も大切だがスポーツを通して団結力を強めるのも社会人になるための勉強である。
◎9 ○5	◎8 ○6	・悪いところ、出来ないことに目が向きがちだが、「いいねカード」の取組によって、自然にリフレーミングできる環境が出来ていると感じる。また、ほめられることで、自己肯定感が高くなり、失敗に対して前向きになったり、色々なことへのチャレンジにつながっているように感じる。 ・具体的に示すことはできないが、児童の笑顔の中に「豊かな心」が育っているのが感じられる。 ・まずは自尊感情を育てる→そつすれば、友人への思いやりも育つ ・多種多様なゲストティーチャーは有意義である。

観 点	評 価 項 目 (学校園・教師の取組) 評 価 指 標 および 目標値 (期待される姿)	評価資料	達成状況	改善の方策
健やかな体の育成	項目 指標 児童は、「全員遊び」、「なかよし遊び」、縄跳びやマラソン等に積極的に取り組んでいる。	児童の様子 体育・保健学習の振り返り 縄跳びがんばり表	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なわとび板を運動場に設置したことで、休み時間自主的になわとびの練習に励む子どもの姿がたくさん見られ、新しい技ができるたびに教師に喜びを伝えてくれた。来年度も運動しやすい環境を整えると共に、外で遊ぶよう声かけを続け、全員遊びや他学年との全員遊びも定期的に行っていく。</li> <li>・外から帰った際や給食前の手洗いなど子ども同士で声を掛け合って実施することができた。今後も、生活目標等で意識づけを行っていく。</li> </ul>
	項目 指標 児童は、自分の体や健康について理解し、感染症対策等自己の健康管理に取り組んでいる。	児童の様子 保健学習の振り返り 生活表	A	
	項目 指標 児童や保護者は、「早寝・早起き・朝ごはん」運動に積極的に取り組んでいる。	児童の様子 早寝・早起き・朝ごはん表 保護者アンケート	B	
ふるさとを愛する心の醸成	項目 指標 児童は、地域での体験活動や、保護者・地域の方との交流を通して学んでいる。	児童の様子 生活・総合等での振り返り 学校・学年だより	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・西小フェスの取組は、3世代での地区懇談会や児童の集会活動を通して、地域と保護者、児童との交流を深める有意義な時間となった。共働き家庭や核家族が増え、親世代と地域とのつながりが薄れてきているが、3世代の交流の機会として、西小フェスが機能していくよう地区懇談会では、「西部地区のよいところ」について話し合うなど、いくつかのテーマを設定し、思いや願いを伝え合える会にしている。</li> </ul>
	項目 指標 児童は、「さんぽ・一声運動」の趣旨を理解し、地域の方に挨拶している。	児童の様子 生活表 保護者アンケート	A	
教職員が働きやすい職場づくり	項目 指標 教職員は、業務改善推進委員会を定期的に実施している。定時退勤日・ノー会議デーを実施している。	教職員の様子 業務改善推進委員会 記録簿	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務改善について語りやすい環境がある。業務改善が一周し、次は「仕事を通して新たな自分に出会える職場」に向けて、働きがいのある職場づくりが必要である。教育に関する新しい知識を得られるよう、情報提供を行い、チャレンジングな取組を推奨し実践を深め、教職員の働きがいを創出していく。</li> </ul>
	項目 指標 教職員は、学校行事、研究推進等円滑な学校運営のため、協力して機動的に対応している。	教職員の様子 業務改善推進委員会 記録簿	A	
保護者や地域に信頼される学校づくり	項目 指標 教職員は、研究主題に向かって、計画的に研究授業や研修会を実施している。	研究授業 研修会 研究テーマシート ふりかえり	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再来年度の特別活動研究会に向けて、主題設定を行い授業公開ウィーク等を学期毎に設定し取り組んでいく。</li> <li>・学校だよりや学年だより、ブロックだより、運動会やオープンスクールなどを通し、学校の取組を見える化することで、赤穂西小学校が何に力を入れており、どのような願いをもって児童を育てているかが伝わるよう取り組んできた。地域の方や保護者など多様な他者が学校を通して行き交い、同じ方向をむいて子どもを育てて行けるよう、来年度も情報発信等に取り組んでいく。また、学年だよりの形式を見直し、保護者に普段の授業の様子を気軽に伝えるものにしていく。</li> </ul>
	項目 指標 学校は、学校評価結果や改善方法について、学校運営協議会・HP等で説明している。	学校評価 学校だより 学校運営協議会 HP	A	
	項目 指標 教職員は、安全点検を月1回実施したり、危機管理マニュアルに基づいた訓練を実施したりしている。	危機管理マニュアル 安全点検簿 訓練	A	
	項目 指標 学校は、通信やHPを定期的に発行し、学校の様子や考えを伝えている。	学校・学年だより HP メール	A	

自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
◎11 ○3	◎7 ○7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員遊びの取組に何も疑問をもっていなかったが、先日ある人から、「全員で遊ばないといけないのが苦痛」と言う話を聞いた。子どもたちがどう思っているのか聞いてもいいかなと思う。</li> <li>・児童が地域のスポーツ、赤穂市のスポーツイベントにもどんどん参加してはどうか。</li> <li>・なわとび板はグッドアイデアである。</li> <li>・マラソン、水泳等全身運動は有効である。</li> <li>・従来より感染対策の重要性が増している。保護者への対策情報の発信が必要である。</li> </ul>
◎11 ○3	◎9 ○5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ・スクール活動が子ども達の自主性を育む場として、とても活かされていると思います。西小フェスティバルは、とても素晴らしい取組だと思いました。</li> <li>・継続して、交流の場を増やしましょう</li> <li>・児童の納涼祭、秋祭り、スポクラ21、元旦登山、ふるさとまつりへの参加。特に親も進んで参加してほしい。</li> </ul>
◎12 ○2	◎9 ○5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職に話をしやすい環境だと常々感じています。職員が色々な事にチャレンジしやすい雰囲気学校全体の雰囲気になっていると思います。</li> <li>・本当にコミュニケーションは大切である</li> <li>・好きなことをして給料がもらえることは素晴らしいことである。</li> </ul>
◎10 ○4	◎7 ○7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な他者が学校を通して行き交いつつ、安心、安全に気を配ることの難しさを少し感じています。そのためには、地域に住む人々の顔がわかるくらいもっと多くの交流が必要なんだろうと思いますが…難しいですね。</li> <li>・学校だよりにより、とても良い学校だと感じています。</li> <li>・学校だよりは、多数発行されていました。</li> </ul>

#### 自己評価における特記事項

・「地域で学ぶ(場)」、「地域から学ぶ(人・もの・こと)」、「地域と共に学ぶ」が定着してきた。4年生に来ていた、老人会の方が、話し終わった後、「私たちも勉強になりました」と述べたり、6年生に来ていた、保護者の方が、話し終わった後、「自分の仕事をふり返る機会になりました」と述べたりしてした。子どもだけでなく、そこに関わる大人も気づきを得て変化していける取組になっている。来年度はゲストティーチャーの方に、授業の最後に、今日話されて感じたことの、ふりかえりを語る時間をとり、学びの交流を推進したい。

・道徳「ひるがえる校章旗」の学習を通して校章にはどんな思いが込められているか疑問をもった。赤穂西小学校の校章の由来「小学校を中心に3地区の未来の発展を願うとともに、睦み合う和の心を象徴してデザインされた」ことを知り地域の願いを感じることができた。

・一年間なかよし班活動を通して、異学年で交流する機会が増え、高学年が低学年の児童に配慮しながら遊ぶ姿が見られたり、低学年の児童と手をつないで歩く姿を見かけたりするようになった。放課後も異学年で遊ぶ姿が見られるようになった。6年生が企画した「鬼おいかけ鬼ごっこ」は、当日の呼びかけであったが、たくさんの児童が集まり異学年で仲よく遊ぶ姿が印象的であった。その後、「6年生ありがとう」のメッセージをいいねカードに書き、感謝の気持ちを伝える児童が多く、渡した児童・貰った児童お互いが優しい気持ちになった。

・体育の授業では、「思考・判断・表現」に焦点をあてた授業づくりを実践した。「タブレットを活用し、自分の動きを分析する。ポイントを理解する。練習の場を工夫する。仲間と協働し、伝え合う。」学習を通して、自己に合ったためあてをもてたり、家庭学習で技のポイントや今後の練習方法などを調べる児童が増えてきた。

・1年間のまとめプリント(漢字)を活用し、毎日10問の小テストを行った。計200題を1月から取り組み、約2ヶ月間総復習する時間を確保し、児童の負担を軽減し、着実に身に付けられるよう工夫した。

#### 項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

・まちづくりのふるさと祭りやふれあいもちつき大会に児童の意見を反映できる仕組みを検討する機会が必要かと感じています。

・最も力を入れるべきアイテム「確かな学力の育成」の達成状況が全てBとなっている点は少し問題?

・再来年度の特別活動研究会に向けては、特別に意識した活動ではなく、通常取組を充実させることが、永続に繋がると感じています。「何かがあるから何かをでは、一過性になるのでは?」今すでに小規模校。何か宝物はありませんか…

・西小フェスティバルへの我々の入り込み方を来年度はもう少し考えたいです。子ども主体でフォローに回るとか。

・昔、子どもが小学生の頃にやっていた「いちごタイム」もう一度やってほしい!私は個人的に好きでオススメです。

・運動会が午前中で終わる様に変更になり地域との連合運動会ではなくなり寂しく思う。西小フェスが連合運動会に代わるものになる様、充実した内容にしていく。

・音楽会やオープンスクール等、色々な行事にもっと地域の方々を巻き込んでいく。今後も減少する児童数、今まで行ってきた行事、運動会や音楽会がいつまで行えるのか。

・児童の減少と共に、地区の子ども会・PTA組織の運営が難しくなっている。